http://www.labornetjp.org
日本から世界から はたらくものの 情報ネットワーク
レイバーネット

Newsletter
No.91
2023年7月1日

発行　レイバーネット日本
〒173-0036　東京都板橋区向原 2-22-17-108
http://www.labornetjp.org
labor-staff@labornetjp.org
電話　03-3530-8588　FAX　03-3530-8578

文化の力・言葉の力で状況をはね返そう！

—7月29日、レイバー映画祭へ—

ニュースレターNO.91を発行しました。昨年11月の90号から久しぶりですが、財政・スタッフ状況を鑑み、今後は年二回発行の予定です。さて今年に入り岸田政権の暴走は止まらず、「改憲・軍事大国化」の安倍路線を突っ走っています。関西生コン・韓国サンケンをはじめ労働運動への弾圧もつづいています。いま踏んばって声をあげる時でしょう。

ことし前半のレイバーネットTVは、小出裕章さんや佐高信さんを招き、改めて今の時代に抵抗していく思いを共有して、大いに盛り上がりました。とくに「新しい戦前にさせない！～反戦川柳人・鶴彬と現在」と題した第185号（5/31）では、佐高信さん（写真）とレイバーネット川柳班がコラボし、反響が大きかったです。視聴数も一月足らずで3500に達しています。

ここで佐高さんはこう語りました。「社会運動はやっている人たちは文化が苦手な人が多い。渡辺白泉は『戦争が廊下の奥に立つてゐた』という句を戦争前夜に発表しているが、民衆の表現はとても大事。われわれは政治的なところでは多数派に負けているが、文化の力・言葉の力でひっくり返していくことは可能だ。鶴彬は、言葉のスナイパー・狙撃手だと思う。権力はその言葉の力を恐れてかれを29歳で殺してしまった。いまこそ私たちは鶴彬から学び、文化の力を考えていきたい」と。

今国会では、軍拡法・マイナーカード・入管法改悪と悪法が次々に通過しました。そんな中でもよかったことは、入管反対運動が大きく広がり、若い人の参加が増え、新しい活動スタイルがうまれたことです。まだまだこれからです。佐高さんは番組で、「いま日本人に求められているのは、好戦の岸田シンゾウの生き方ではなく、日本国憲法を体現した中村哲の生き方だ」と言います。状況は厳しいですが、鶴彬や中村哲に学び「平和・人権」の憲法精神を取り戻していきたいものです。

2007年に始まった「レイバー映画祭」は今年で16回目を迎えました。「勇気と希望を与える映画祭」として定着してきました。5月14日には、東京・国立で初めての「三多摩レイバー映画祭」が開かれるなど、「レイバー映画祭」のウェイブは確実に拡がっています。

7月29日のレイバー映画祭2023のメインプログラムは、ドキュメンタリー映画『サラリーマン』です。コスタリカ女性アーティストの眼から、日本の「ホワイトカラー労働者」の姿が見事に捉えられています。またグーグル労組・非正規公務員などホットな労働現場を捉えた新作短編が、多数発表されます。ぜひ一緒に「レイバー映画祭」（7月29日・全水道会館）を成功させましょう。プログラムの内容時間など詳細は、同封のチラシを参照ください。（事務局M）

●あなたの働き方・生き方を問う！ 映画『サラリーマン』

「こちらは死人ではありません。普通のサラリーマンです」。コスタリカ出身の写真家、アレグラ・パチェコさん（36）は、路上で寝るサラリーマンの周りを白い線で囲って写真を撮った。なんでスーツ姿のまま路上で眠り込んでいるのだろう。そんな疑問をきっかけに、映画作りが始まった。2014年から5年の歳月をかけて、100人ほどに取材をした。パチェコさんは居酒屋で飲んだくれる人たちにマイクを向ける。「サラリーマンって何ですか？」。そう問うと彼らは、笑いながらも堂々と答える。「社畜です！」と。企業戦士とよく言われてきたが、その泥酔の末に倒れている姿はまさに、戦場で戦死している姿だった。

映画は海外女性アーティストの新鮮な眼で、日本のサラリーマンの典型的な24時間をしっかり捉えている。一生懸命働き、一生懸命飲む。家庭を顧みず、自分の生活を犠牲にする。頻発する過労死や自死。日本は海外から「労働者の権利が護られていない国」と揶揄されているが、映画を観ているとその通りだと言わざるをえない。

いま、こうしたサラリーマンが支えた経済大国ニッポンに、大きな陰りが見え始めている。このドキュメンタリーは「今までの働き方、生き方で本当にいいのだろうか」という問いを、私たちに突き付けてくるのだ。

（原題「salaryman」）制作：アレグラ・パチェコ
2021年／80分

【他の上映作品】

- **『サイレント・フォールアウト～乳歯が語る大陸汚染』**（伊東英朗）
- **『春をかさねて』『あなたの瞳に話せたら』**（佐藤そのみ）
- **『ドキュメント石垣島　2023年3月陸自ミサイル基地開設の瞬間』**（湯本雅典）
- **『ドキュメント 私の好きな店』**（津田修一）
- **『在日ビルマ労組 ここにあり』**（山村淳平）
- **『非正規春闘～ＡＢＣマート5000人の賃上げを勝ち取るまで』**（総合サポートユニオン）
- **『大リストラNO! ～Google ユニオンのたたかい』**（東京管理職ユニオン）

貴重なネットメディアとして歩み続ける！

～レイバーネット総会 2023 開かれる～

2023 年 3 月 4 日、レイバーネット総会が全水道会館 4F 小会議室で開催されました。参加者は計 23 人（リアル 18 人・オンライン 5 人）でした。去年一年の活動を振り返りながら、問題点などあげてディスカッションしました。ウェブサイト・映画祭・フェスタ、各プロジェクトなど 2022 年も活発な展開がありましたが、課題もみえてきました。総会第一部では、2022 年の活動報告・会計報告（昨年末で 870,570 円の繰越）を承認し、2023 年度の予算・運営委員案を承認しました。活動についてのディスカッションでは、筆力のある「書き手」を増やすこと、「編集デスク」人材の拡充、などの必要性が強調されました。

第二部では「新宿西口フォークゲリラ」の映像をとおして、「場づくり」の重要性を改めて共有しました。仲間うちの運動ではなく、一般の人たちとつながる指向性です。まただれもが自由に発言し、相手を認めてディスカッションする新宿西口広場のあり方は、「分断」されがちな私たちの運動に示唆を与えるものでした。川柳句会・ブッククラブ・シネクラブ・フィールドワークには会員以外の一般の参加が増えています。そのテーマの会合に止まらず、困ったことを相談できる「交流の場」としての意味を、捉えかえすことができました。

「創業は易し守成は難し」という言葉が紹介されました。「新しく事業を興すことよりも、その事業を受け継いで守り続けていくことのほうが難しい」という意味です。レイバーネットは23年目に入りました。「持続は力なり」の精神で、左派の貴重なネットメディアとして、引き続き頑張っていきたいと思います。

（レイバーネット事務局）

【2022 年度会計報告】

〔基本財政〕

収入（会費カンパなど）　1,102,407 円
支出（ニュースレター、交通費、ネット、事務所、各部費用など）
差引△ 99,790 円(a)

〔特別会計〕

●レイバー映画祭 2022
収入　302,820 円
支出　288,850 円
差引　13,970 円(b)

●レイバーフェスタ 2022
収入　281,100 円
支出　239,640 円
差引　41,460 円(c)

●レイバーネット TV
収入　TV サポーター会費　128,000 円
支出　放送一式 13 回分　329,044 円
差引　△ 201,044 円(d)

●サーバーカンパ
収入　391,280 円
（55 人・98％達成）
支出　259314 円
差引　（予備費）　131966 円(e)

★ 2022 年度の決算
(a)＋(b)＋(c)＋(d)＋(e)＝△ 113,438 円
★ 2021 年度よりの繰越金　984,008 円
差引残高　870,570 円
（2022 年 12 月 31 日）

〔追記〕運営委員メンバーは 2022 年度を踏襲しました。紙面の都合で紹介は略します。皆さんのカンパで新サーバーを購入することができました。ことし前半、ウェブサイトの新サーバー移行作業を進めてきましたが、従来の OS が相当古いためバージョンアップに手間がかかるなど、いろいろ難航しています。なるべく早くしっかりした形のウェブサイトを構築したいと思います。カンパの予備費をそれにあてる予定です。また厳しい財政状況がつづいています。会費の前納・カンパなど宜しくお願いします。（事務局）

＜レイバーネットのプロジェクト活動にあなたも参加しませんか？＞

レイバーネットはゆるやかな自由なネットワーク体です。この間、さまざまなプロジェクトが生まれています。ぜひご参加ください。あるいは新企画も歓迎です。

●川柳班　月 1 回程度の句会を「郵政共同センター」で開いています。リアル・オンラインで、毎回 20 人近くが兼題にあわせて投句し、それをめぐって句会ではディスカッションしています。句を通していろんな話に発展して楽しいです。（担当＝笠原眞弓）

●ブッククラブ読書会　一つの本をめぐっての語り合いです。オンラインが中心ですが、毎回 10 数人が集っています。名古屋の小野政美さんも常連。すでに 42 回の会を重ねています。前回は、岸本聡子『地域主権という希望』でした。次回は 8/26（土）の予定。（担当＝志真秀弘）

●レイバーシネクラブ　映画批評家の木下昌明さんが中心に始まったシネクラブですが、いまは堀切さとみさんが担当しています。最近では「雪道」「僕たちは希望という名の列車に乗った」「大統領の理髪師」「フラガール」「ラストエンペラー」と続いてきました。いろんな人との出会いの場、相談の場にもなっています。郵政共同センターで開催。

●フィールドワーククラブ　「現場に行って見て、知ろう」ということでできたフィールドワーククラブ。第一回は「軍都新宿と 731 部隊」で 18 人集まりました。その後、秩父事件の現場も訪ねました。「大鹿村リニア反対運動と満蒙開拓平和資料館を訪れる旅」は残念ながら、豪雨で延期になりましたが、鋭意、企画を検討中です。担当＝根岸恵子。

レイバーネットの歴史をたどる ＜連載・第２回＞

レイバーフェスタはこうしてはじまった!

以下は、ポール・ジョバンさん（パリ第７大学・日本の労働運動研究者／レイバーネット会員）が、2009年に共同代表の松原明さんにインタビューしたものです。翻訳は長谷川澄さん（一部加筆）。

★ポール：松原さんが、日本の労働運動に文化を持ち込もうと思ったのは、そのことで若い人達を引き付けることができると考えたからですか？
★松原：ええ、正にその通りです。これまでの伝統的な組織の中では、若い人達にバトンを引き継いで行くことが出来ていないと感じていました。インターネットや文化を使うことによって、多くの若い人を引きつけ、継続してきたものを新しい世代に伝え渡すことが可能になると思いました。レイバーフェスタを始めたきっかけは、韓国労働運動からの刺激が大きかったです。韓国では、毎年11月にたくさんの音楽とリズム感にあふれたダンスが一晩中続く、大規模な「労働文化祭」が行われています。それに参加した若いレイバーネットの活動家たちは、強い刺激を受けました。サンフランシスコでも、同じようなことが行われています。日本でもそういうことをしてみようということで、レイバーフェスタが始まったんです。映画や音楽を使って、労働運動をもっと魅力のある、楽しいものにしたいと考えました。2002年12月に初めて「レイバーフェスタ」を開催しましたが、その時は、ケン・ローチ監督の『ブレッド＆ローズ』を上映しました。東京・なかのゼロホールに500人が集まり大成功でした。

●みずから表現すること「３分ビデオ・川柳」

★ポール：それからレイバーネットはさまざまな表現活動をしていますね？
★松原：そうです。ただ、映画を見るだけでは受け身すぎる、何か皆が参加できるもの、自分の考えを表現できることをしたいと思いました。それは、３分ビデオというアイデアでした。３分間のビデオなら初心者でも手が届きます。内容については、全く自由で、職場のこと、生活のこと、葛藤でも、何でも良いことにしました。次の年の2003年には、20本近く集まりました。以来、レイバーフェスタの目玉になり、皆の一番大きな関心を集めています。そして、文章による表現としては、2008年には「ワーキングプア川柳」という、新しいジャンルが誕生しました。

★ポール：成功した理由は、何だったとお考えですか？
★松原：レイバーフェスタで我々が理解したことは、文化の持つ力の強さです。文化というと、余暇の楽しみとか娯楽とかに混同されることが多いですが、それは全くちがいます。力を持った文化というのは、何よりも先ず、人に思考することを促し、生きるチカラを与え、希望と勇気をもたらすものでしょう。労働運動を強くするためにも、文化のチカラがとても重要だと思います。そしてこの間、レイバーネットの活動をしてくるなかで、「情報・メディア・文化」の三つを組み合わせたものが、日本の労働運動を活性化する鍵になると思うようになりました。

●縦型の運動から横型の運動へ

★ポール：その言わんとするところは？
★松原：普通は、組合というのは、自分たちの業種や企業などのごく狭い枠に留まっていることが多いです。とくに日本では、“企業組合”という言葉が示しているように、それが顕著です。また組織が大きくなればなるほど、情報が縦型で上から下に流れる形になっています。ピラミッド型です。でも本来は横につながり、企業の枠も国境の枠もこえて、資本の対抗して団結を広げていくのが「労働者の運動」だと思います。文化や情報のチカラは、そうした縦型の運動に風穴をあけて、本来あるべき横型の運動体につくるうえで、重要な役割を果たすと思います。

★ポール：レイバーネットのホームページを見ると、50くらいの団体のロゴやリンクが出ています。独立系の組合や争議団、そして全労協のものが多いですね。また日本共産党と近い関係の全労連もありますし、驚くのは労使協調路線の連合の名さえ出ていることです。
★松原：レイバーネットは自由な個人のネットワーク体です。労働運動のなかでインターネットを活用していこうという趣旨の人が、所属をこえて集まってできたものです。だから全労協・全労連・連合など所属組織は関係ありません。対立しがちな組織をこえた横断的ネットワークであることが、この会の魅力かもしれません。実際に参加している人は、官公庁や大企業の大手組合の人は少なく、個人加盟のユニオン系でした。その人達が世の中にアピールする手段として、いち早くインターネットに注目していたし、実践していました。たとえば首都圏青年ユニオン、ガテン系連帯、東京東部労組、フリーター全般労働組合などです。2006年のメーデーでは、この若い非正規雇用労働者たちが中心となって、“自由と生存のメーデー”を行い、世間の大きな反響を呼びました。またレイバーネットには労組関係者だけでなく、文化活動家・ジャーナリスト・大学研究者・弁護士など幅広い人たちが加わっています。インターネットを活用していこうというところで結びついた、新しい形の「労働者・市民運動」といえるでしょう。

新会員紹介

●移民・難民・労働者の権利に関心　ダニエル・ヘンリ

ダニエル・ヘンリです。アメリカ人ですが、オーストラリアに長く住んでいました。オーストラリアに住んでいた時に移民・難民の権利に興味がありました。またバーニー・サンダーズの政治運動や労働者の権利にも興味がありました。最近、入管法改悪反対集会に行って、労働組合の旗をいっぱい見て感動しました。そんなことはアメリカ、オーストラリアでも、まだただの希望です。労働運動と移民・難民、LGBT、反レイシズム、反植民地主義運動の団結は素敵なことです。レイバーネットも素敵な組織です。もっと記事を翻訳して海外に伝えていきたいと思います。(レイバーネット国際部所属)

●実地的な運動マニュアルがほしい　中村顕一

お世話になります。私は「市民合体かつしか21プロジェクト（@katsushika21p)」の中村と申します。この組織は、葛飾区議会(定員40名)にて野党勢力での過半数獲得を目的にしています。当初は葛飾での市民連合を模索しましたが、まだ難しいようで…。そこで調整役ではなく既存野党にも意見をして、政党の政策ではなく市民の声を反映させていくことを目指しています。しかし素人のため、型のある動きが全くできていません。私自身は過激派と指定される組織に所属したことはありませんが、先ごろスタンディングを行っていたところ職務質問を受けました。このような時にどう対応していいのか。また、路上活動の手段など、独りからできる実地的な運動マニュアルを求めていまして。何卒宜しくお願い致します。

●閉塞感をやぶるラディカルな活動を！　渡辺美奈

レイバーネットのみなさんにはずっとお世話になっていましたが、会員になったのは初めてです、どうぞよろしくお願いします。東京にあるアクティブ・ミュージアム「女たちの戦争と平和資料館」(wam）という日本軍性奴隷制の被害と加害を中心に伝えるミュージアムを運営に携わって17年になります。土日のイベントにはなかなか参加できないので、ＭＬを読むことが中心になっていますが、レイバーネットには個人として参加しつつ、発信するチャンスをうかがっているところです。日本社会の閉塞感をやぶるラディカルな活動、あるいはアジアや南米をはじめとした世界各地でうまれるアイデアを交換できる貴重な場として、レイバーネットに期待し、楽しみにしています。

●会社にものを言える組合として　三多摩合同労働組合

三多摩合同労働組合は、1976年に結成された地域合同労働組合で、会社にはっきりとものを言える労働組合です。労働者であれば、ひとりからでも加入でき、仕事の違いや労働者の身分上、雇用関係上の違い（たとえば、正社員、嘱託労働者、パート労働者、臨時労働者、派遣労働者等）や性別や国籍の違いを越えて加入できることを組織の原則としています。東京都立川市に事務所があり、主に多摩地域の労働問題に取り組んでいます。よろしくお願いいたします。

インフォメーション

●三多摩レイバー映画祭が大成功

東京・国立の映像居酒屋、キノキュッヘで開催された「三多摩レイバー映画祭」は、本家本元のレイバー映画祭よりも、労働映画祭という名前に相応しいものだったかもしれない。5月14日（日）午後1時から7時まで。定員は40人で途中出入り自由なのだけれど、終始満員。そして映画の後には、制作者、登場人物らが解説し、会場との質疑応答が行われた。制作順に上映された6つの作品は、どれも素晴らしかった。上映されたのは『人間を取り戻せ！～大久保製瓶闘争の記録』『オキュパイ・シャンティ』『プラットフォームビジネス～自由な働き方の罠』『韓国KBSドキュメンタリー・韓国サンケン労組』『あの空へ帰ろう～JAL争議団の闘い』だった。映画を観た後に、美味しい料理と酒を飲みながら語り合える場がほしいと、仲間が資金を集めて作った「キノキュッヘ」。マスターの佐々木健さんも、この店を始める前に、労組を作ったことがあるという。「三多摩レイバー映画祭」は、数多くのイベントをやってきたキノキュッヘの中でも、新たなはじまりを予感させてくれる一日だった。(H)

●関西生コン『ここから』が日隅一雄賞

6月11日、人権弁護士だった日隅一雄さんの遺志をついだ「情報流通促進賞」の2023年授賞式が、後楽園の涵徳亭で行われた。土屋トカチ監督のドキュメンタリー映画『ここから「関西生コン事件」と私たち』は奨励賞を授賞した。「関西生コン」事件で弾圧を受けた人々の日々を追い続け社会から隠された市民の営みを明らかにした、と評価された。昨年夏のレイバー映画祭で初公開された映画『ここから』は、いま全国に広がっている。

●あなたも今日からビデオアクティビスト

昨年来、好評だった新時代アジアピースアカデミー(NPA)ビデオ講座だが、その第三弾の日程が確定した。初級講座が9月3日(日)と10日(日)で場所は東京・水道橋の「梨の木ピースアカデミー」。講師はレイバーネット共同代表の松原明氏だ。今回は要望に応えて中級講座（8/6）もある。詳細は「新時代アジアピースアカデミー」で検索してください。

レイバーネット日本の会員になりませんか

現会員数560名
ウェブアクセス1日6,000

会員になれば、自分でニュースやイベント、お知らせを提供できます。レイバーネット日本は組合や個人が全国にアピールできる絶好の場所です。

年会費　3,000円
（Ｂ会員＝5,000円　通常＋ＴＶサポート）

郵便振替　00150-2-607244　レイバーネット日本
銀行口座　きらぼし銀行　小竹向原出張所
普通　5002960

入会申込用アドレス　apply@labornet.jp.org
電話　03-3530-8588　ファクス　03-3530-8578